



動物と出会い 人と触れ合っ て 心のときめきをコーディネートするために — ZOO VOLUNTEER

円山動物園
ボランティア会

ふれあい・コンタクト

ニュースレター第58号 2013(平成25)年10月15日発行 発行責任者:佐藤國男(代表世話役)

円山動物園ボランティア会 / 〒064-0959 札幌市中央区宮ヶ丘3 札幌市円山動物園経営管理課気付 TEL(011)621-1426

ボランティアの日

9月8日(日)「ボランティアの日」が快晴の中、多くの子供たちを集め盛大に開催されました。

(来園者数は6,345人)

ボランティアの四つの班がそれぞれ趣向を凝らした催し物を行い、大変好評を博しました。

スタンプラリーでは約500人の子供たちがヒョウのお面やリスザルとフクロウのペーパークラフトの記念品を受け取りに来ました。今回は本部の担当者もお面をかぶったり、机の上に完成したクラフト見本を展示したので、子供たちが大いに興味を示してくれました。これからも子供たちに夢と希望を与えるため、「ボランティアの日」を各班が創意工夫し、充実したものにしていけることが出来ればと思いました。

(クマチカ班 竹尾昌巳)



興味津々

私はオランウータンの「レンボー」。今日は朝からボランティアさんが、机を並べていろいろなことをしているわ。こっちの机では手に赤い絵の具をつけて、紙の上にペタッ。私たちの手と人間の手の大きさを比べるんだって。あっちの机の上にはボランティアさんたちの手作りグッズがいっぱい。ストラップに、缶バッチに、蛇の抜け殻カードに指人形。サイコロを転がして出た目の景品が貰えるんだって。どっちも楽しそう。天気が良くて、沢山のお客さんが来たのでとても盛り上がっていたのよ。

私も一緒にやりたかったなあ。

(やせい班 成田 愛)



お絵かきコーナー大賑わい



お馴染み、『宝探し』『お絵かき』『動物尻あて』の各コーナーとスタンプラリーでは『ぬりえ』用紙を配布しました。例年と違い宝探しとお絵かきのコーナーが一緒になりました。また、お絵かきの方法を変え、箱の六面にも描けるように工夫してみたところ、大きなキャンバスに描く以上に人気があり、なかには兄弟三人で六面に絵を描き、記念に持ち帰ったご家族もありました。

宝探しは猿たちのようにはいきませんが、食べられる穀物を探し小さな指でつまんでいる姿を、お父さんが写真に撮るなどしていました。また尻あてクイズでは、お母さん等の応援ヒントをもらいながら答え、ほめられては照れくさそうに景品の「動物しおり」を受け取っていました。

(ワイルド班 上田得一)

『わくわく蟲（むし）ランド』は大賑わい

今年の夏の特別展はビックリ仰天の蟲達のオンパレードで連日大賑わい！クワガタなど普通の昆虫の他に奇妙な形のウデムシや無数の足の気持ち悪い大型ヤスデ、そして極めつけは毛むくじゃらでぞっとする姿のタランチュラ等、約30種の生きている各種節足動物の陳列展示です。

これらを称して「蟲」として披露した傑作なイベントでしたが、生体の姿を見ていただく展示で、巨大なヤスデが這いまわっていたり、タランチュラがガラスケースの中でいつの間にかハンモックのように巣を作ってすっぽり入っていたりして、子供たちは「キャー、キャー」、「何これ！ビックリ」と大変な騒ぎでした。

8月1日から25日までの開催でしたが、土曜日には専門家のスライドを使ったお話があり、特に北大の大原先生の、古代から節足動物が現代の昆虫に至る進化の変遷のお話には子供達も目を輝かせていました。

毛むくじゃらで気持ち悪い？蟲の筆頭格のタランチュラは数種おりましたが、どうやらこの蜘蛛を自宅で飼っている愛好家からお借りした個体もいたようで、いやはや趣味の世界はまさに多様ですね。

期間中、蟲達の人気投票が実施されましたが、結果ダントツ1位は子供たちに超人気の「ヘラクレスオオカブト」で、上位入賞にはヤスデやムカデなど気味悪そうなムシが入り、7位以内にはウエー！と目をそむけたくなるタランチュラが2種も入ったのにはちょっと驚きでした。

大人気のイベントは無事終了しましたが、関係者の皆様のご尽力には感服しました。（やせい班 佐藤國男）



ヘラクレスオオカブト



タランチュラ

動物慰霊祭



今年も9月23日から一週間は「動物愛護週間」です。それに伴って25日（水）13時30分より動物科学館ホールで「慰霊祭」が執り行われました。大通幼稚園の園児50人とその保護者、一般入園者、動物園関係者等当日の参加者全員によって黙祷が行われ、課長から「亡くなった動物は、多くの人々に親しまれたシンリンオオカミ（キナコ）マンドリル（チャールズ）アナコンダ等昨年9月から今年8月31日までのものです。全部で53種97点、その内容は哺乳類18種52点・鳥類12種20点・は

虫類・両生類22種25点が生命を全うしました」と報告の後、見上園長と園児代表による献花があり、園児と保護者・入園者・ボランティアと職員が続きました。園長が「この慰霊祭に多くの方に参列いただき有難うございます。動物愛護週間では全国動物愛護フェスティバルなど開かれています。動物園の主人公である動物たちが多くの皆さまに愛され、親しまれて健やかであることを願ってお礼の言葉と致します。」と結びました。

アニマルファミリー「レデイ」感謝イベント

9月25日（土）午後アニマルファミリー限定の「レデイ」感謝祭が開催されました。今回のイベントは「工藤桂一円山動物園応援基金」による、チンパンジー館屋外放飼場へ針葉樹植樹と果物をあちこちに置くことでした。ゲートを開けるとチンパンジーたちは一目散に果物に駆け寄り、好きな物を抱えてそれぞれの場所で食べていました。主役の「レデイ」もモモを両手に持って塔に登り食べていました。（ワイルド班 水戸久仁子）

キーパーさん紹介

野生復帰施設・猛禽舎担当

塚田 光司さん

この欄2回目の登場となる（前回No.46号）塚田さん、動物園に来る前は学校の事務員さんとしてお勤め。現在1男1女の育メン真っ最中のお父さんです。円山動物園での飼育員としては5年目、白鳥池・水禽舎を皮切りにフクロウとタカの森、野生復帰施設、猛禽舎、さらにフリーフライトも担当してこられました。今は、野生復帰のための技術確立のため奮闘中です。



Q、入園以来、白鳥などの水鳥、その後、フクロウやタカの森、猛禽の飼育に携わってきたのですが、水鳥と今担当の猛禽類の違いと言うとどんなところですか？

A、猛禽類は水鳥などに比べると神経質なので、飼育舎に自分が入ることでストレスを与えないよう、鳥たちがばたついて怪我をしないように、作業を最小限にすることを心がけています。

Q、鳥たちの健康状態はどのようにして見分けるのですか？

A、高いところにいるのでよく見えないこともあります。が、身体の汚れや、身体を膨らませていないか、羽が下がっていないかなど、気を付けて観ています。

Q、他の動物などでは餌の食べ具合のことをよく言われるのですが。

A、食いムラのある鳥ですから、餌が残っていても気にしません。残す前提で多少多めに与えて、適量かどうかチェックしています。

Q、ところで、野生復帰施設にはシマフクロウがいますが、あれは展示しないのですか？

A、ブリーディングローンで来園したもので、繁殖が目的です。釧路の獣医さんが血統管理をしているので、円山の個体に合うメス個体が保護されるのを待っています。

また、当園にはまだ、シマフクロウ繁殖のノウハウがないので、出来るだけ落ち着ける環境が必要と考え、展示は控えています。

Q、野生復帰の取り組みについて、教えてください。

A、現在は、傷ついたり、病気になったりして保護された猛禽類の野生復帰に取り組み、知見を蓄積しています。また今後は、猛禽類の人口繁殖についての研究を始める予定です。将来的には、円山動物園の象徴的な動物であるオオワシの野生復帰にも取り組んでいきたいです。

『私の担当施設は吹きさらしのところばかりなので、他の施設のボランティアさんのように飾ったりしていただくことが出来ません。それが羨ましいですね。』とも仰っていました。

私たち、熱帯鳥類館にいます！

ぜひ、会いに来て下さい！！



アカハナグマ



チリーフラミンゴ



ベニイロフラミンゴ

大好評 夜間開園 来園者に感動！！



最終日 8月31日、アジアゾーン。

暗くなる前でしたので、ポスターのような闇に浮かぶトラではありませんでしたが、日中と違い2頭ともよく動き回っていました。『でかい』『迫力あるっつ』とか『可愛い』という声も聞こえてきました。

ユキヒョウの「リアン」は、岩山の上からある一点をジーツと見つめ、今にも飛びかかりそうな態勢。そして5メートルの崖をひとつ飛びで駆け下りる。そんな行動を何回も繰り返しました。野性的な機敏さに全員が驚き歓声を上げていました。夜だからこそその動物たちの姿でした。

アジアゾーン以外でも、キーパーの塚田さんの腕に乗ったユーラシアワシミミズクの周りに大勢の人ばかり、日中よりクルクルした大きな瞳でサービス満点(?)の「フク」ちゃん。『さわりたいなァ』と呟く子供たちと写真を撮る保護者など。小雨が時折降る天気なのに切れ目ない来園客でした。

夏の夜の来園者総数は9回の開催で43,499名との報告に当日の混雑ぶりを納得しました。
(ふれあい班 古林友己)

9月22日(日) 秋夜のZooを開催。

8月には雨天日が多かったのにもかかわらず、毎回沢山の来園者があり駐車場に入る車が地下鉄の駅位まで並んだそうです。最後の日には昼間9700人、夜間には4400人。複数のドキドキ体験メニューでお客様の分散を図っていましたが、一部の獣舎館では入ることも出来ない位の行列が出来ていました。限定メニューでは抽選を待つ列がセンターから科学館まで出来ていました。私もイベント会場の案内、塵ひろい、迷子の世話等、ユニホーム姿で回っていました。夜間開放に期待して来て下さったお客様が多かったと思いますが夜行性といっても飼育されている動物なので寝ている個体も多かったです。

最後のイベントに沢山の方々が小林飼育員のサトークに耳を傾けてくれました。サトークは闇夜の中遊び回っていましたが、暗くて誰なのか判断が付きづらいのにN022のコウ太だけは確認出来、笑ってしまいました。正門ではマルヤマン体操をシークインと子供達で行い幕を閉じました。

園長はじめ職員の皆様毎回お疲れ様でした。

(ワイルド班 田中一江)



(夜間開園 サルトーク)

エゾモモンガ「タロー」を偲んで

今から9年前、「タロー」は南区で保護され、目も開いていませんでした。当時の清水飼育員に育てられ、3年目の春、清水さんにラブコールしたこともありました。(成獣は交尾期以外はほとんど鳴かない)旧展示場での滑空訓練では、大好きなカボチャの種子に向かって飛ぶ愛くるしい姿に、多くの人が癒されました。ドサンコの森(新展示場)に移り、「ハニー」との同居を続けながら、今年6月11日、初めて4匹の父となったのです。寿命は野生では3年、飼育下では7年の記録があるそうですが、「タロー」は長寿でした。しかし父親になった「タロー」は、呼吸が早まったり、尾の毛が抜け落ちて、体調がよくありませんでした。

9月21日、新聞で「タロー」の死を知りました。展示場の前には、献花台が設けられていました。

「タロー」に感謝を込めて・・・(合掌)

(やせい班 都築勝江)

「ナナコ」のトレーニングその後

夏の暑い日も「ナナコ」は毎日元気にターゲットトレーニングを続けていました。胸、首、爪へのタッチ、爪へのヤスリ当て、爪研ぎ(最初は逃げました)。が、8月30日には伸びていた爪の先をカットできるところまで来たとのことです。

(ワイルド班 水戸久仁子)